

文書番号: 176909 - 最終更新日: 2003年1月22日 - リビジョン: 2.0

[HOWTO] VSS のデータベースやプロジェクトを新しい場所に移動する方法

この記事は、以前は次の ID で公開されていました: JP176909

概要

この資料は、Visual SourceSafe のプロジェクトやデータベースを別の場所に移動する際の、一般的な 3 つの状況について説明しています。これを正常に行うために必要な手順については、下記の「詳細」で詳しく説明します。

状況 1

Visual SourceSafe のインストール環境全体をあるコンピュータから別のコンピュータに移動する。

状況 2

プロジェクトの履歴は保持したまま、1 つまたは複数のプロジェクトをあるデータベースから別のデータベースに移動する。

状況 3

DATA ディレクトリだけを Visual SourceSafe サーバー以外のコンピュータに移動する。この方法を使用すると、データベースにアクセスするクライアントを変更する必要がありません。

重要: どの方法を使用する場合も、必ず最初にデータの完全なバックアップを取るようしてください。バックアップの注意点として、運用形態によっては整合性に問題の生じる可能性があります。ユーザーが Visual SourceSafe で作業をしているときにバックアップを実行すると、データの整合性は保証されません。問題が発生することを避けるために、事前にデータベースのロック処理を行い、その後バックアップを実行してください。データベースをロックしても、現在ログインしているユーザーはロックアウトされません。バックアップ ファイルの整合性のため、Visual SourceSafe 管理者は、データベースをロックする前に、各ユーザーにログオフするよう依頼した後、[チェックアウトの取り消し] を行うか、チェックインするように指示してください。また、バックアップ後は Analyze ユーティリティによりデータベースの整合性およびエラーを調べることをお勧めします。

詳細

各状況で使用する手順は、実行している Visual SourceSafe のバージョンによって異なる場合があります。

状況 1

あるコンピュータから別のコンピュータに VSS サーバーのインストール環境全体を移動する。

1. <server>\VSS のインストール ディレクトリ全体を、別のサーバーにコピーします。
2. Visual SourceSafe クライアントから、コピー先のデータにアクセスできることを確認します。
3. 手順 3. は、使用している Visual SourceSafe のバージョンによって異なります。

Visual SourceSafe 4.x クライアントの場合

- a. Srcsafe.ini ファイルのローカル コピーの場所 (たとえば、<ローカル ドライブ >\vssclient\Srcsafe.ini) に移動し、テキスト エディタでこのファイルを開きます。
- b. #include ステートメントの行を編集して、新しいサーバーの Srcsafe.ini の場所を指定します。以下に例を示します。

変更前 #include \\oldserver\oldshare\vss\srcsafe.ini 変更後 #include

\\newserver\newshare\vss\srcsafe.ini

Visual SourceSafe 5.x またはそれ以降のクライアントの場合

- a. Visual SourceSafe エクスプローラを起動します。次のエラーが表示される場合は、[OK] をクリックします。 File '\\oldserver\oldshare\srcsafe.ini' not found.
- b. Visual SourceSafe の [ログオン] ダイアログ ボックスで [参照] をクリックします。
- c. [データベースを開く] ダイアログ ボックスの [参照] をクリックします。
- d. Visual SourceSafe サーバー ディレクトリの新しい場所に対する UNC を入力し、srcsafe.ini を開きます。これにより、新たに用意したデータベースに対応するエントリが [利用可能なデータベース] の一覧に追加されます。
- e. ここで、古いデータベース参照は、このダイアログ ボックスから削除することができます。

重要：オペレーティング システム レベルの特権を、新しいサーバー ディレクトリに正しく追加してください。

必要なネットワーク特権の詳細については、「サポート技術情報」(Microsoft Knowledge Base) の次の資料を参照してください。 [131022](http://support.microsoft.com/kb/131022/JA/) (http://support.microsoft.com/kb/131022/JA/) [VSS] Visual SourceSafe フォルダに要求されるアクセス権限 **注：**このデータベースへのショートカットがある場合は、古いサーバー上の ssadmin.exe を指していた、クライアント上のショートカットのリンク先を必ず変更するようにしてください。

状況 2

プロジェクトの履歴は保持したまま、1 つまたは複数のプロジェクトをあるデータベースから別のデータベースに移動する。

注：この手順を使用できるのは、Visual SourceSafe 5.0 またはそれ以降のみです。

Visual SourceSafe に付属するユーティリティの SSARC と SSRESTOR を使用します。これらのユーティリティを使用すると、プロジェクトのアーカイブへの保存、履歴の保存、および新しいデータベースへの復元を行うことができます。

注：これらのユーティリティを使用するには、SourceSafe の Admin 特権を持っている必要があります。

注：プロジェクトを正常に復元するには、プロジェクト内のファイルの最新バージョンすべてがアーカイブに含まれている必要があります。SSARC で -v スイッチを使用して古いバージョンのファイルをアーカイブに保存した場合、別のデータベースでは最新のバージョンが必要になるため、そのアーカイブから復元することはできなくなります。

関連情報については、次の「サポート技術情報」(Microsoft Knowledge Base) を参照してください。 [173387](http://support.microsoft.com/kb/173387/EN-US/)

(http://support.microsoft.com/kb/173387/EN-US/) PRB: Restoring an Archive of an Entire Database

[JP042142](http://support.microsoft.com/kb/JP042142/JA/) (http://support.microsoft.com/kb/JP042142/JA/) SSARC/SSRESTOR 実行中は Visual SourceSafe が使用不可

注：プロジェクトを新しいデータベースに復元すると、物理ファイルの名前が変更されるため、Visual SourceSafe に統合されているプロジェクトでは再接続が必要になることがあります。関連情報については、「サポート技術情報」(Microsoft Knowledge Base) の以下の資料を参照してください。 [166305](http://support.microsoft.com/kb/166305/EN-US/) (http://support.microsoft.com/kb/166305/EN-US/) HOWTO: Reconnecting a Visual C++ Project to Source Control

状況 3

DATA ディレクトリだけを Visual SourceSafe サーバー以外のコンピュータに移動する。

1. <VSS server>\DATA ディレクトリだけを新しい場所にコピーします。
2. <VSS server>\srcsafe.ini ファイルの data_path 変数を編集します。次に例を示します。

変更前 data_path = data 変更後s data_path = \\<new server path>\data

サーバーの Srcsafe.ini は移動していないため、このデータベースにアクセスするクライアントを変更する必要はありません。

その他のヒント

1. オペレーティング システム レベルで、古い Visual SourceSafe のインストール環境に対するすべてのユーザーのアクセス許可を削除して、間違ったデータベースとの間で作業のチェックインやチェックアウトが行われないようにしてください。
2. 処理が完了したことを確認できたら、古い Visual SourceSafe のインストール環境を削除してください。
3. 古いインストール環境に、シャドウ フォルダ、ジャーナル ファイル、または Web サイトのセットアップ がある場合は、すべてのパスが新しいサーバーの場所を正しく参照していることを確認する必要があります。これらの設定は、Visual SourceSafe のサーバー コピー上の srcsafe.ini にあります。
4. Visual SourceSafe をクライアント インストールから起動すると、次のエラーが表示されることがあります。
Invalid DOS path: "<path>\srcsafe.ini" これは、クライアントの srcsafe.ini の #include 行にあるパスが間違っていることを示しています。

または

ファイル名が不正です : "<path>\srcsafe.ini" これは、オペレーティング システムの権限が不十分であることを示しています。

関連情報

関連情報については、次の「サポート技術情報」(Microsoft Knowledge Base) を参照してください。 [175950](http://support.microsoft.com/kb/175950) (<http://support.microsoft.com/kb/175950/EN-US/>) HOWTO: Change the Name of a Visual SourceSafe Database

関連情報

この資料は米国 Microsoft Corporation から提供されている Knowledge Base の Article ID [176909](http://support.microsoft.com/kb/176909) (<http://support.microsoft.com/kb/176909/EN-US/>) (最終更新日 2001-07-18) 、旧 JP414054 をもとに作成したものです。

この資料は以下の製品について記述したものです。

- Microsoft Visual SourceSafe 5.0 Standard Edition
- Microsoft Visual SourceSafe 6.0 Standard Edition
- Microsoft Visual SourceSafe 4.0 Standard Edition
- Microsoft Visual SourceSafe 4.0a

キーワード: kbhowto kbssafe600 kbssafe400 kbssafe500 kbssafe600faq kbfaq KB176909

"Microsoft Knowledge Baseに含まれている情報は、いかなる保証もない現状ベースで提供されるものです。Microsoft Corporation及びその関連会社は、市場性および特定の目的への適合性を含めて、明示的にも黙示的にも、一切の保証をいたしません。さらに、Microsoft Corporation及びその関連会社は、本文書に含まれている情報の使用及び使用結果につき、正確性、真実性等、いかなる表明・保証も行ないません。Microsoft Corporation、その関連会社及びこれらの権限ある代理人による口頭または書面による一切の情報提供またはアドバイスは、保証を意味するものではなく、かつ上記免責条項の範囲を狭めるものではありません。Microsoft Corporation、その関連会社 及びこれらの者の供給者は、直接的、間接的、偶発的、結果的損害、逸失利益、懲罰的損害、または特別損害を含む全ての損害に対して、状況のいかんを問わず一切責任を負いません。(Microsoft Corporation、その関連会社 またはこれらの者の供給者がかかる損害の発生可能性を了知している場合を含みます。) 結果的損害または偶発的損害に対する

責任の免除または制限を認めていない地域においては、上記制限が適用されない場合があります。なお、本文書においては、文書の体裁上の都合により製品名の表記において商標登録表示、その他の商標表示を省略している場合がありますので、予めご了承ください。"



お問い合わせ

[マイクロソフトへ問い合わせる](#)

サポート オンライン

Microsoft

©2009 Microsoft